

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

新設組織 (収容定員を 変更する組織)	入学定員 (うち臨時 定員)	2年次 編入学定員	収容 定員	所在地
長崎大学医学部 医学科	1 1 4 (1 9)	5	7 2 9	文教キャンパス (大学本部) 長崎市文教町 1-1 4 坂本キャンパス 1 (医学部) 長崎市坂本 1 丁目 1 2 番 4 号

②新設組織の特色

長崎大学医学部医学科では、以下の学習成果を身に付けることを教育目標とし、学士課程教育を行っている。

- ・豊かな人間性と高い倫理観を持ち、良好な人間関係を構築できる能力
- ・医学・医療の基本的知識と技能を有し、チームの一員として診療に参加できる能力
- ・医科学領域における課題探求・解決能力を有し、論理的思考ができる能力
- ・グローバルな視点を有し、地域社会および国際社会に貢献できる能力

また、推薦入試（長崎医療枠、地域医療特別枠、佐賀県枠、宮崎県枠）を実施し、長崎県、佐賀県及び宮崎県で抱えている医師不足や地域間の医師の偏在といった問題解決に取り組んでいる。さらに、推薦入試（研究医枠）を実施し、基礎研究医を目指す医師の養成を行っている。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

(i) 地域枠（推薦入試B（地域医療特別枠）、推薦入試C（佐賀県枠、宮崎県枠））に関して
長崎県では、医師数が人口10万人当たり341.6人（厚生労働省大臣官房統計情報部「令和4年医師・歯科医師・薬剤師調査」）で、全国平均272.3人を上回っているが、地域偏在が顕著であり、離島・へき地においては、佐世保県北地区268.0人、県南地区198.4人、五島地区230.3人、上五島地区189.5人、壱岐地区212.5人、対馬地区233.3人と深刻な医師不足となっている。

佐賀県では、近年医師の増加数が大幅に縮減しており、特に医師少数区域における医療提供のための医師確保が必要である。また、高齢人口の増加に伴う医療需要に対応するため、特定の診療科の医師の育成も重要な課題となっている。上記の状況から、医学部定員の増員の必要性がある。

宮崎県では、令和6年1月に厚生労働省が示した医師偏在指標において、宮崎県は全国で

下位 1 / 3 に含まれており、九州で唯一の医師少数県となっている。さらに、令和 4 年度無医地区調査では、宮崎県内に 13 カ所の無医地区が存在するなど、宮崎県の医師不足と医師の地域間偏在は深刻かつ慢性的な問題となっている。

(ii) 研究医枠（推薦入試D（研究医枠））に関して

国内の医学系大学院進学者における基礎系（MD）の割合については、平成 5 年度から令和 2 年度にかけてほぼ横ばいとなっており、その割合を高めることが必要であると示されている。（令和 3 年 3 月第 37 回医師需給分科会）

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

(i) 地域枠（推薦入試B（地域医療特別枠）、推薦入試C（佐賀県枠・宮崎県枠））について

長崎県の高等学校の生徒数については、減少傾向だが、大学等への進学率は増加傾向となっており、令和 6 年度には 49.8%と過去 5 年間の平均 48.2%と比較すると増加している。（令和 6 年度長崎県学校基本調査）

佐賀県の高等学校の生徒数については、減少傾向だが、大学等への進学率は増加傾向となっており、令和 6 年度には 48.4%と過去 5 年間の平均 46.5%と比較すると増加している。（令和 6 年度佐賀県学校基本調査）

宮崎県の高等学校の生徒数については、減少傾向だが、大学等への進学率は増加傾向となっており、令和 6 年度には 48.1%と過去 5 年間の平均 46.9%と比較すると増加している。（令和 6 年度宮崎県学校基本調査）

以上のことから、いずれの県においても、高等学校の生徒数は減少しているものの、大学等への進学率が増加傾向であるため、今後も安定した学生の確保を見通すことができる。

(ii) 研究医枠（推薦入試D（研究医枠））について

全国的な 18 歳人口については減少傾向だが、大学等への進学率は増加傾向となっており、令和 6 年度には 61.9%と過去最高となっており、今後も安定した学生の確保を見通すことができる。（令和 6 年度学校基本調査）

③新設組織の主な学生募集地域

(i) 地域枠（推薦入試B（地域医療特別枠）、推薦入試C（佐賀県枠・宮崎県枠））について

地域枠については、それぞれの地域出身者に限った枠であり、(2)②で示したとおり、今後も安定した学生の確保を見通すことができる。

(ii) 研究医枠（推薦入試D（研究医枠））について

研究医枠については、全国的に同様の入試枠を設けている大学が少なく、また本学の研究医枠のカリキュラムでは、本学の強みを活かした研究医プログラム（基礎医学研究）、熱帯医学プログラム（熱帯医学の基礎研究）、国際保健プログラム（国際保健医療、放射線健康科学分野）、法医学プログラム（法医学研究）の 4 つのプログラムで差別化しており、他大学との

競合が少ない。また、令和7年度入学においては他県からの出願者が85.0%を占めていることから差別化が全国的に認知されており、(2)②で示したとおり、今後も安定した学生の確保を見通すことができる。

④既設組織の定員充足の状況

(i) 地域枠（推薦入試B（地域医療特別枠）、推薦入試C（佐賀県枠・宮崎県枠））について

推薦入試B（地域医療特別枠）については、令和3年度は志願倍率1.3倍だったが、令和4年度から上昇し、令和7年度も2.6倍と安定しており、今後も安定した学生の確保を見通すことができる。

推薦入試C（佐賀県枠）については、募集定員2名に対して、令和3年度以降、2～9名の間で推移し、少数ながらも安定し、受験生に対して推薦C（佐賀県枠）が定着してきたと見られ、令和7年度の志願倍率は4.5倍であり、今後も同等数の志願者数及び入学者数を期待できる。

推薦入試C（宮崎県枠）については、募集定員2名に対して、令和3年度以降、2～6名の間で推移し、少数ながらも安定し、受験生に対して推薦入試C（宮崎県枠）が定着してきたと見られ、令和7年度の志願倍率は2.0倍であり、今後も同等数の志願者数及び入学者数を期待できる。

(ii) 研究医枠（推薦入試D（研究医枠））に関して

推薦入試D（研究医枠）については、令和3年度から令和7年度の5年間で、志願倍率2.6～4.0倍と安定しており、今後も安定した学生の確保を見通すことができる。

資料1：長崎大学医学部医学科 過去5年間の志願倍率

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学医学部医学科のオープンキャンパス（令和7年度参加者：341名）及び移動オープンキャンパス（令和7年度参加者：100名）にて、地域枠学生及び研究医枠学生による地域枠ならではの教育や活動、そしてキャンパスライフなどの視点からも受験者及び保護者への説明会を行っている。

また、平成27年度からは、本学への進学希望者等を対象に、受験勉強に対するモチベーションを上げてもらうことを目的に、キャンパスビジットを開催している。企画・運営は、学生有志が主体であり、グループディスカッションや実習体験を盛り込み、新たな手法で本学の魅力を発信している。

また、高校教諭との入試連絡会も毎年実施しており、午後に実施される分科会にて各高校の進路指導担当教員へ本学科の推薦入試枠制度に関する実績及び将来像について説明しているほか、本学の教員が出前講義（令和7年度：7校（予定））にて高校を直接訪問した際に、

受験希望者へ入試に関する説明を行っている。

長崎県福祉保健部医療人材対策室でも地域医療人材確保に向けて、毎年、直接高校（5校程度）を訪問し、受験希望者や進路担当教諭等に現在の県内医師不足の状況及び医学修学資金貸与制度の説明を実施している。

なお、令和4年度入試選抜から、推薦入試A（長崎医療枠）及び推薦入試B（地域医療特別枠）にゼミナール選抜を導入した。両推薦枠への出願には、受験が実施される年度の「地域医療ゼミナール」を受講することを要件としており、講義やディスカッションをとおしてアドミッション・ポリシーで求める資質・素養を育成すると同時に、地域医療における現状や課題を認識し、ミスマッチの予防を強化している。地域医療ゼミナールへの参加には、推薦する高等学校長等による確認を要しており、高校による進路指導等における生徒のキャリア計画や適性判断の強化を期待している。

さらに令和6年度から日本経済新聞社が主催する「医学部進学フォーラム」の東京会場と大阪会場でブースを出展し、対面で入学説明を行い、将来研究医を目指す学生に対して本学の特色ある研究医枠のプログラムをアピールした。また、医系専門予備校メディカルラボ主催に「バーチャルオープンキャンパス」にも出展し、積極的に入試広報活動を展開し、全国の研究医を目指す受験生らに本学の特色のあるプログラムを紹介するなど研究医枠の志願者を増やす取り組みを行っている。

イ 新設組織における取組とその目標

（3）①ア のとおり引き続き実施していく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

（3）①ア のとおり引き続き実施していくため、（2）④のとおり、安定した学生の確保を見通すことができる。

②競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

（i）地域枠（推薦入試B（地域医療特別枠）、推薦入試C（佐賀県枠・宮崎県枠））について
地域枠については、各県の出身者かつ、将来各県での地域医療を志す学生のみが出願できるため、他大学からの影響を受けにくい。現状、（2）④のとおり、いずれの入試枠でも安定して志願者を確保できており、その要因として、以下の取り組みが考えられる。

また、地域枠の志願者数に関しては、各大学の競合よりも、医師という職業を選択した場合の人生設計の見通しこそが志願者数に大きく影響するが、各県において「医師確保計画」を策定し、医学部入学からの人材育成を含む医師確保のための政策を打ち出している。

・教育プログラム

低学年時から保健学科との共修による地域包括ケアの学修を行うとともに、1年次にリハビリテーション施設、2年次に高齢者介護施設、3年次に診療所での体験実習の機会を設けている。

また、4・5年次での臨床実習では、離島での包括的な地域医療実習のプログラムや地域包括支援センター及び訪問看護ステーションの協力を得て在宅医療を学ぶ機会を設けている。

さらに、地域枠の学生は、5・6年次の高次臨床実習において、地域中核病院または離島病院のうち2か所以上で必ず実習を行うこととなっている。

その他にも離島実習や活動報告会（ワークショップ）など学生が自主的に長崎県の医療や離島・へき地医療などについて考える機会を設けている。

- ・奨学金

長崎県・佐賀県・宮崎県ともに修学資金制度を設けており、入学金及び授業料、専門課程における学習図書購入費、勉学生生活費などについて、各県から支援を受けることができる。

(ii) 研究医枠（推薦入試D（研究医枠））に関して

研究医枠については、全国で15大学のみが研究医枠を保持しており（令和2年度時点）、そのうち、地域性や学力層を鑑みて競合校となり得る山口大学及び滋賀医科大学では、入試枠が設けられておらず、いずれも影響は受けにくい。現状、(2)④のとおり安定して志願者を確保できており、その要因として、以下の取り組みが考えられる。

- ・教育プログラム

研究医枠のカリキュラムでは、本学の強みを活かした研究医プログラム（基礎医学研究）、熱帯医学プログラム（熱帯医学の基礎研究）、国際保健プログラム（国際保健医療、放射線健康科学分野）、法医学プログラム（法医学研究）の4つのプログラムで差別化しており、1年次にそれぞれの希望に沿ったプログラムの教室に配属され、授業科目として1年次から4年次前期にかけて研究室配属実習Ⅰを履修する。

引き続き、3年次後期から4年次前期にかけて「リサーチセミナー」の科目履修が必須となっている。医学部及び熱帯医学研究所並びに原爆後障害医療研究所等の学内教育研究施設の教員の指導のもと、各学生が自身の設定した研究テーマを通して、基礎研究を理解し実施する能力や理論的かつ批判的に考察する能力を培い、各学生は発表会で研究成果を報告し、学会や論文発表の基礎的な技術を身に付ける。

さらに、4年次後期から6年生の実習期間に基礎研究室にて研究活動を行う研究室配属実習Ⅱでは、臨床実習で得た新たな知識や経験を用いて研究をより深化させる工夫等も期待し、配属先教室で継続的且つ綿密に研究指導を行っている。

- ・奨学金

研究医コース奨学金を支給している。支給額は5万円／月（給付）、支給期間は学部4～6年次、大学院博士課程1～4年次の合計7年間。研究医コースに配属された学生のうち、毎年5名まで奨学生となることができる。

イ 競合校の入学志願動向等

(3)②アのとおり、地域枠に関しては、各大学の強みよりも、医師になった際の各県に戻ってからの人生設計の見通しの方が重要であり、各県の「医師確保計画」による政策が志願者数に大きく影響するため、大学間の競合という概念があまり当てはまらない。研究医枠に関しては、各大学の研究の強みや研究力が志願者数に影響するため、各大学の強みが違う以上、単純な入試な

どの数値で強豪校との比較が難しく、大学の強み（研究内容や特色あるカリキュラム）をアピールすることで競合校との差別化を図ることで安定した志願者数の確保に繋がると考える。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

該当なし

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学の授業料、入学料及び検定料は、文部科学省の「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に示されている授業料、入学料及び検定料の標準額を学生納付金として設定している。

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

該当なし

⑤人材需要に関するアンケート調査等

該当なし

（４）新設組織の定員設定の理由

長崎県、佐賀県及び宮崎県にあっては、かねてからの医師不足に重ね、専門医指向等により都市部医療機関へ医師が集中することで地域間の医師偏在が顕著になっており、特にへき地における医師不足は厳しい状況が続いている。その一方で、長崎県内の初期臨床研修医数（特に大学病院以外の研修病院のマッチ者数）や離島の医師数は増加傾向にあり、これまで取り組んできた地域枠入学制度や地域医療教育の充実等の包括的な取組が徐々に効果を発揮してきたものと考えている。このため、長崎県、佐賀県及び宮崎県と協議した結果、本学では令和７年度を期限とする入学定員を延長し、令和８年度の推薦入試Ｂ（地域医療特別枠）を１２名、推薦入試Ｃ（佐賀県枠及び宮崎県枠）４名増員することにより、定員数を確保し、医師偏在の非常事態に直面する離島・へき地への地域医療人育成について今後も継続して取り組むこととした。

研究医コース修了者から、本学大学院進学者や本学教員を輩出し、定員増及び入学後の研究医向けのカリキュラムによる成果が出始めている状況にあるが、本学のみならず国内では臨床医を目指す学生が多数を占めており、基礎研究医を目指す学生を引き続き安定的に確保し養成することは重要であると判断し、さらなる人材育成の発展のため、令和６年度まで１名だった増員を、令和７年度からは３名増員とした。

資料 1 長崎大学医学部医学科 過去 5 年間の志願倍率

表 1－1：令和 3 年度

R3

R3

学部	日程・学科等			募集人員 A	志願者 B	受験者	合格者	志願倍率 B/A
医学	前期日程	医学科		76	380	339	76	5.0
				第1段階不合格	42			
	推薦	医学科	推薦A(地域医療枠)	15	28	28	15	1.9
			推薦B(地域医療特別枠)	15	19	19	15	1.3
			推薦C(佐賀県枠)	2	2	2	2	1.0
			推薦C(宮崎県枠)	2	2	2	2	1.0
			推薦D(グローバル研究医枠)	10	28	28	10	2.8
	合計			120	501	418	120	4.2

表 1－2：令和 4 年度

R4

学部		日程・学科等		募集人員 A	志願者 B	受験者	合格者	志願倍率 B/A
医学	前期日程	医学科		76	380	339	76	5.0
		第1段階不合格			77			
	推薦	医学科	推薦A(地域医療枠)	15	30	30	15	2.0
			推薦B(地域医療特別枠)	15	27	25	15	1.8
			推薦C(佐賀県枠)	2	4	4	2	2.0
			推薦C(宮崎県枠)	2	3	3	2	1.5
			推薦D(グローバル研究医枠)	10	26	25	10	2.6
	合計			120	547	426	120	4.6

表 1－3：令和 5 年度

R5

学部	日程・学科等			募集人員 A	志願者 B	受験者	合格者	志願倍率 B/A
医学	前期日程	医学科		71	273	232	71	3.8
				第1段階不合格		0		
	推薦	医学科	推薦A(長崎医療枠)	15	30	29	15	2.0
			推薦B(地域医療特別枠)	15	48	42	15	3.2
			推薦C(佐賀県枠)	2	4	4	2	2.0
			推薦C(宮崎県枠)	2	6	6	2	3.0
			推薦D(研究医枠)	10	33	30	10	3.3
	合計			115	394	343	115	3.4

表 1－4：令和 6 年度

R6

学部		日程・学科等		募集人員 A	志願者 B	受験者	合格者	志願倍率 B/A
医学	前期日程	医学科		76	588	331	76	7.7
				第1段階不合格			207	
	推薦	医学科	推薦A(長崎医療枠)	15	34	33	15	2.3
			推薦B(地域医療特別枠)	15	40	37	15	2.7
			推薦C(佐賀県枠)	2	5	5	2	2.5
			推薦C(宮崎県枠)	2	6	6	2	3.0
			推薦D(研究医枠)	5	19	18	5	3.8
	合計			115	899	430	115	7.8

表 1－5：令和 7 年度

R7

R7	学 部			日 程 ・ 学 科 等		募 集 人 員 A	志 願 者 B	受 験 者	合 格 者	志 願 倍 率 B / A
医 学	前期日程	医学科		76	446	341	76	5.9		
			第 1 段階不合格		66					
	推薦	医学科	推薦A(長崎医療枠)	15	39	38	15	2.6		
			推薦B(地域医療特別枠)	14	46	44	14	3.3		
			推薦C(佐賀県枠)	2	9	9	2	4.5		
			推薦C(宮崎県枠)	2	4	4	2	2.0		
			推薦D(研究医枠)	5	20	19	5	4.0		
	合 計			114	630	455	114	5.5		

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	長崎県	1,835人	48.3%
2	福岡県	465人	12.2%
3	佐賀県	189人	5.0%
4	大分県	163人	4.3%
5	鹿児島県	148人	3.9%
	全 体	3,802人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 （都道府県）	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	長崎県	100.96%	100.96%	102.33%

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	医学	100.00%	100.00%	100.00%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

1. 各選抜方法の状況

		R3 年度入学者	R4 年度入学者	R5 年度入学者	R6 年度入学者	R7 年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	44人	44人	44人	39人	38人	42人
	延べ人数	79人	90人	121人	104人	118人	102人
	志願者数	79人	87人	111人	99人	114人	98人
	受験者数	44人	44人	44人	39人	38人	41.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	79人	90人	121人	104人	118人	102.4
	志願者数	79人	87人	111人	99人	114人	98
	受験者数	44人	44人	44人	39人	38人	41.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	44人	44人	44人	39人	38人	41.8
一般選抜	募集人数	76人	76人	71人	76人	76人	75
	延べ人数	422人	458人	273人	588人	446人	437.4
	志願者数	339人	340人	232人	331人	341人	316.6
	受験者数	79人	79人	72人	76人	81人	77.4
	合格者数	3人	3人	1人	0人	5人	2.4
	うち追加合格者数	3人	3人	1人	0人	4人	2.2
	辞退者数	422人	458人	273人	588人	446人	437.4
	志願者数	339人	340人	232人	331人	341人	316.6
	受験者数	79人	79人	72人	76人	81人	77.4
	合格者数	3人	3人	1人	0人	5人	2.4
	うち追加合格者数	3人	3人	1人	0人	4人	2.2
	辞退者数	76人	76人	71人	76人	77人	75.2
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	120人	120人	115人	115人	114人	117人
	延べ人数	501人	548人	394人	692人	564人	540人
	志願者数	418人	427人	343人	430人	455人	415人
	受験者数	123人	123人	116人	115人	119人	119人
	合格者数	3人	3人	1人	0人	5人	2人
	うち追加合格者数	3人	3人	1人	0人	4人	2人
	辞退者数	501人	548人	394人	692人	564人	540人
	志願者数	418人	427人	343人	430人	455人	415人
	受験者数	123人	123人	116人	115人	119人	119人
	合格者数	3人	3人	1人	0人	5人	2人
	うち追加合格者数	3人	3人	1人	0人	4人	2人
	辞退者数	120人	120人	115人	115人	115人	117人
	入学者数	120人	120人	115人	115人	115人	117人

3. 入学定員充足率

	R3 年度入学者	R4 年度入学者	R5 年度入学者	R6 年度入学者	R7 年度入学者	平 均
入 学 定 員	120人	120人	115人	115人	114人	116.8
入 学 定 員 充 足 率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	1.00
歩 留 率	0.98	0.98	0.99	1.00	0.97	0.98

令和7年度入学においては、一般選抜の採点ミスにより年度途中に1人の追加合格があり、募集人員76人に対して入学者は77人となった。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：

長崎大学医学部医学科

	R6年度入試	R7年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	308人	341人	<p>①取組概要 高校生を対象にキャンパスを開放しオープンキャンパスを実施しています。入学試験の概要、教育プログラムについて、学生生活について、先輩学生からの学生生活紹介を実施している。</p> <p>②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 当該オープンキャンパスに限らずPR活動を実施しており、地域枠、研究医枠どちらも志願倍率は1倍を超えて安定的に推移しているため増員分の志願者数及び入学者数を期待できる。</p>
うち受験対象者数(b)	74人	70人	
うち受験者数(c)	41人	26人	
うち入学者数(d)	9人	8人	
(受験率 c/b)	55.4%	37.1%	
(入学率 d/b)	12.2%	11.4%	